

令和3年度 岐阜市立女子短期大学あり方懇談会（第2回）
議事録 概要

- 【日時】** 令和3年9月1日（水）10時00分～11時55分
- 【場所】** オンライン
※傍聴者は岐阜市役所6階 6-1大会議室
- 【出席者】** (ZOOMによるオンライン出席)
竹内 治彦座長、石田 達也構成員、林 正子構成員、
松川 禮子構成員、西村 訓弘構成員 野々垣 孝彦構成員、
(会場出席)
水端 盛仁構成員、畑中 重光構成員、久米 規文構成員

1 開会

2 企画部長あいさつ

- ・本日はご多用のところ、ご出席を賜り厚くお礼申し上げます。
- ・7月以来、約1か月半ぶりの開催であり、本日は、岐阜市立女子短期大学（以下、「岐女短」という。）で検討する3つの学科をテーマとする。
- ・民間企業の各種アンケート調査では、高校生が大学などを選ぶときに最も重視するのは、何を学び、身に付けることができるかである。そのためには、学部・学科編成をどうしていくかが岐女短のあり方を検討する上で、大変重要であると考えている。
- ・昨年、学内で議論の上まとめた提言書でも、短中期的に学科編成を見直し魅力ある教育内容を追求していくとしており、本日は学内で検討している学科編成を切り口に公立の高等教育機関としてのあり方など、幅広く忌憚の無い御意見を賜りたいので、よろしく願います。

3 議事

- ・学科編成について
 - ◆事務局等から資料に基づき説明

◆以下、出席者の意見

○座長

- ・それでは意見をお願いします。

○出席者 A

- ・今年度岐女短へ3名以上入学した8つの公立高校にどのような志望で岐女短へ入学したか聞き取りをしたので紹介する。公立高校8校で合計35名が岐女短へ入学し、入学制度では総合型選抜又は学校推薦型選抜が35名中29名、一般受験6名と総合型選抜や学校推薦型の入学者が多い。その中の一つの高校では岐女短に10名が合格し、内入学者は5名、残り5名は愛知県の私立4大へ入学した。岐女短に合格しても岐阜県、愛知県の4大との競合もある。各校の校長先生の話では、岐女短入学者のタイプは大きく二つに分かれると言っていた。公立校の学費が安いのは魅力だが、実務経験を2年で積み20歳で社会人を目指す生徒と岐女短入学後に3年次編入で4大を視野に入学する生徒である。短大志望の高校生の割合は全国的に減少傾向で、県内でも前々年度8名、前年度6名、今年度3名と年々岐女短入学者が減少する高校も存在した。短大の2年課程で職業直結の資格が学べる魅力を高校へ宣伝すべきで学科編成で何を学び、職に就けるかを考えていく必要がある。卒業後の職が学科で学んだことと、どのようにリンクするか考えながら、岐女短の就職状況を各種形態で広報し魅力を伝えほしいという意見があった。
- ・高校は中学生に志願してもらうことを考える時に、3、4年後を見据えて学校のあり方を変えるか、学科をどのように編成すべきか、現在いる学生が満足する進路実現を考えていく必要がある。短大でも学科編成などを考える一方で、在籍学生が何を学びどのように進路決定するかのサポートは必要と思う。
- ・佐賀県の女子短大では、学科編成したが志願倍率が大きく向上できないまま効果が無かった事例もある。学科編成などの将来的な枠組みを変えるなら進路や就職先との連続性や繋がりがないと改善されないと思うので、今いる学生の就職先や4大への編入の仕組みも考えながら、学科編成を検討していけるとよい。

○出席者 B

- ・何を勉強してきて、何ができるか、何が職場で役に立つかが採用する側の学生評価の基本的部分である。学んだことを社会で活かせるか学校側が各学科でビジョンやあり方を明確にし、卒業後どのような仕事に就けるかなど学科内容を考えていくべきである。岐女短卒業生を受入れて役に立つと思うのは、分析機器を使えることだが、大学卒業者でも使えない方がいるので、どこに就職し何がしたいかマッチングしたカリキュラムを設定し、アドバイスも得ながら選択する体制でないと就職時に役に立たないことがあり、実際にそういうケースが増えている。ITや語学の学びでの資格取得は就職時に役に立つので、その点をカリキュラムにし、どのレベルまで目指せるか就職先や仕事内容に繋げると学生もイメージが沸くと思う。

- ・在學生はなぜ岐女短に入学したか、将来何をやりたいかなどのヒアリングしたような情報がないので、在學生の実情把握も必要と思う。岐女短は就職希望の学生が多いと思うので、その辺りをフォローする指導やカリキュラム、何を学ぶのが役に立つか説明が必要である。
- ・岐阜学は、現カリキュラムでもケーススタディで岐阜を題材に、課題設定や解決に繋げることが必要である。岐阜の特徴である産業、農産物、デザインなどをどう変えるか又はどうしたらよいかなどの発想を描き、単純な学問ではないSTEM教育の一環として捉え方の明確化が必要と思う。
- ・教員の人員配置は、現教員継続か外部採用かという問題が出てくると思うが、必要とすべきカリキュラムか、どのようなビジョンで学科編成を進めるか前向きな姿勢で考えないと明確に進まないと思う。食品で考えると、一つの概念として機能性と安全性が重要で、食べる、美味しいも必要だが、何を食べれば体によいか、いつ食べれば体によいか、何と何を組み合わせれば体によいかなど、健康と食を繋げていく考え方がある。美味しく料理することも大きな概念だが、食に対する機能的概念が付加される点を学校教育でも捉えていく必要があると思う。健康の機能的要素をどのように考えて食生活などに繋げるか、あるべき食事は何かなど学科編成を行う上で具体的な実例も参考にすると明確なテーマになると思う。また、スポーツや美容でも様々なカテゴリーがあるが、それらを食と繋げる考え方もある。健康食品では、食と医薬品、食と運動、食と医療、食と介護、このような結び付けで複合的なプロセスを考えるのも一つのテーマになる。色々な捉え方があると思うが、岐女短が目指すべきものを明確にして進めてほしい。

○出席者C

- ・高校生が大学へ進む時は将来の希望や将来どうなりたいか大きな目標を持つと思う。そのために、何を教えてくれる大学に進学するか考える中では、カリキュラムや学科内容に興味があると思う。職業直結の資格が取得できるのが岐女短の魅力という話がありましたが、就職を受け入れる側は何を学んで何ができるかを見て評価する。こうした時に将来を考える人間教育が大事で、カリキュラムなどの内容も重要だが人間学やリーダー教育で社会に貢献する学生の輩出が大事だと思う。2年の短大がよいのか、将来、社会で活躍する人材創出のためにしっかりと4年間勉強することが必要なのかを考えることも一つの方法と思う。

○座長

- ・三重県内の短大の情報があればお願いしたい。

○出席者D

- 三重大学の近くの津市に三重短期大学があり、学科編成の状況はよく分からないが、編入で三重大学に入学したい子が結構いると聞く。レベルは高いという評価を受けておりブランドを持っていると思う。
- 本日の資料では、どのような高校生に入学して欲しいかターゲットや方向性が明確でないと思う。岐女短の1学年 230 人程度の定員であれば、幅広い生徒を呼ばなくてもよいと思う。私が、経営者の頃にマーケティングで重要にしていた点は、顧客の顔をいかに鮮明にするかで、例えば喫茶店をオープンする時に、どのようなお客さんに来て欲しいかと聞いて「みんなに来て欲しい」という回答では一般的に儲からない。具体的に子連れのお母さんにも来て欲しいとかを考えないと店のコンセプトは固まらない。短大や大学運営なら将来どうなれるか、何が学べるかなどを明確にすることが重要だが、総花的になっておりその辺が足りないと思う。また、出口の部分の作戦でどのような人を育てて社会に輩出するかを考えた時に、就職はできるが就職して何年働ける人材を育てられるか、就職後2～3年働くだけの人材を育てるなら現状の方法でよいと思う。自己成長型として生きていく上の力の基礎を付けて社会の厳しさも知りながら覚悟を持って身に付けられるか、どのようなスペックを身に付けた学生を育てたいかをはっきりしないといけないと思う。
- 自己成長型の人材育成として岐阜学で地域課題を解くことはすごく意味がある。世の中の変化は地域で起きており、そこでの課題解決や考える力は学生にとって効果がある。岐阜学を学ぶ上で地域課題も多様性を持ち奥深い方がいいと思うので、岐阜市内か岐阜県内か地域枠も考えるとよい。
- 資料1のデザイン環境学科の説明で本物志向とあるが、地域課題の解決を本気で学生に経験させないと自己成長する学生は育成できないと思う。新設学科を設定するなら教員の問題が出てくるが、教員が基礎的なことを学生に教えるのは可能である一方、応用面での教えができないことや結果を出したい場面で出せないケースがある。その対応として、クロスアポイントメント制度や非常勤講師ではなくて実業家の方々に週1回でも正式な教員として世の中で何が起きているかなど先端で活躍している方に教えてもらう講義を考えるとよい。この考え方で大学運営を進めるなら、ターゲット選定やどのようなスペックの学生を輩出するか明確にして進めていける話ではあるが、岐女短の定員規模ならターゲットを絞り込んで選定していけばよいと思う。この考え方で文部科学省も注目し成功しているのが前橋国際大学で、社会課題を考える時に企業に対しアイデアと具体的商品まで提案しないと単位がもらえない科目がある。結果で責任を取るような方法に学生も合わせ、その厳しさが結果的に学生には効果がある。前橋国際大学に入学すると何が学べるか高校生

は分かって入学している。入学後もモチベーションの向上で更にレベルの高い大学を目指す学生も輩出しているので参考にしてもらえたらと思う。

○出席者E

- ・現状を変えるのは難しいので、現在の財産や人材など現状に沿った学科編成はよく分かるが、資料1の学科編成の目標で例えば「人生100年時代におけるQOL（クオリティーオブライフ）の向上」は学科が目指す目標ではなく、文字通り社会が求めている目標であり、こういう学科編成、カリキュラムでいくという関係性のところで社会課題に対する設定がもう少し明確になるとよい。
- ・岐阜学は専門科目の基礎で3学科全て学べるのは中心軸になると思うが、どのような学生を求めるか考える必要がある。新設科目で何を学ぶのが可能か、岐女短のコンセプトを明確に打ち出すには科目名だけではアピール点として弱く、受験生に伝わる部分が少ないと感じる。学年別教育内容の配分イメージも現教員でどのように充実させるか具体的にするとよい。資料1の2ページ以降で新設科目が赤で表示され各学科魅力的と思うが、例えば比較文化論がどのように岐阜学と関連しているか科目名だと伝わらない。学内で十分考えていると思うが、資料1では説明が前面に出ていないように感じる。
- ・資料2でも20～30年前は愛知県や岐阜県の短大にも国文科や英文科が設置されていたが、軒並み改組されて4大化が進み、現代社会学部やカタカナでの新設学部へ一気に編成が進行した。一方、資料2の3ページ（学科分類別トレンド）で日本文学が上昇トレンドの点は岐女短として捨てるべきものではないと思う。岐阜学との関連付けは、日本文学関係と直結するような地域文学、岐阜ゆかりの文学などを通して人間力や地域課題を解く力を養い、ふるさと教育や高校などで学んだものが短大や大学で開花する繋がりが大切である。全国の大学で教養部を一気に廃止した後に蘇りして実は重要であると認識されたケースもあり、岐阜学と結びける形で人文、文学系学科を残していただけたらと思う。
- ・資料2の18ページ、佐賀女子短期大学の新設学科の充足率が低調という結果ではあるが、真似する必要はないが特色ある取り組みで2年次に韓国へ1年間留学する内容は、個別具体的で非常に明確な取り組みと思う。岐女短も協定大学や岐阜市の姉妹都市等々、個別具体的な取り組みを前面に出すことも重要と思う。
- ・卒業後の職業とのリンクも思考し、明確な受験層などを考えるなら職業直結の学びが重要であると同時に、理想の学生を求める上で、幅広い職業の可能性があるが、高校卒業時点では就きたい職業が明確でない学生も多数存在する。一方、短大や大学入学後に就職先が明確になることもあり、入学後に学生をフォローする取り組みの示しが重要と思う。先ほどの話の自己成長型教育は共感

できる。具体的授業の科目として、入学後に職業先と結びつけたガイダンスを設定し、職業選択に向けた学びができるアピールもあると思う。

- ・資料2の12ページに大垣女子短期大学で定員充足率の増加は、成功事例として鍵となる点があるかもしれないので、充足率を上げたか理由を機会があれば知りたい。

○出席者F

- ・定員充足率増加は、東海エリアの短大では大垣女子短期大学のみと認識している。運営の中身は大幅に変えていないと思うが、コロナ禍で地元志向が強まっているのは一つの理由としてあると思う。大垣女子短期大学卒業後の進路は全ての学科で就職志向が非常に強い。定員は50人の4学科で、大きなマーケットの市場でターゲット選定していないのと様々取り組みによる地道な努力が昨年度に効果が出たと分析している。

○出席者G

- ・資料1で印象的なのが、全学科共通教育の情報教育（データサイエンス）を新設する点は、今後の高等教育の基礎スキームとして各地の大学で学生に学ばせる傾向と思うが、かなり専門性の高い分野でこれを教える人材が各大学に充分存在しているかは思えない。滋賀大学がデータサイエンス学部を新設していたが本格的に進めようと思うと関心のある分野だが、現状の大学教員で教えるのは難しいと思うので岐女短でも2年から5年程度掛けて新たな人材を検討する必要があると思う。
- ・国ではデジタル庁を発足し、今後はあらゆる分野でデジタルトランスフォーメーションに関連する取り組みが進められ、これまでの単なる情報教育（データサイエンス）の考え方と違ってくると思う。岐女短では共通基礎で専門教育の軸として非常に先見性があると思うが、各専門分野でデータ分析など行う手法の問題が出てくると思う。また、岐阜学で岐阜地域の課題解決をする中、座学ではなくフィールドワーク、プロジェクト型学習を実施するかなど、学生が何を学ぶかより、どのように学ぶかが今後の短大や大学では大事だと思う。現教員の移動で新設学科を教えた場合、内容などに変化がないことになりがちなので、各学科の教育方法、学び方を根本的に考えるのが改めて大事だと感じた。
- ・短大は学ぶ期間が2年間と短いため、多くの分野を学ぶのは難しい。高校での学びを題材に新たな時代に対応したデジタルスキルの基礎の底上げが大事である。また、教員が専門分野でどのように活かして伝えるかが大事で、実践科目で学生を鍛えて社会に通用する人材育成が重要である。これらの考え方で進めるなら産官学が連携しないと対応できないと思うし、各教員の研究テー

マに縛られて教員の教えたいたいことが中心のカリキュラムになりがちだが、違う形にするためには、誰が何を教えるか教員の配置も考えていく必要がある。

- 卒業後の就職状況は、予想外にコロナ禍が長引いており第2期就職氷河期の到来も懸念されているため、企業の人材需要の先読みが難しい。そういう意味では、資格を取得した社会人も大事だが、将来自立していける基礎的教育を考えることも必要と思う。

○出席者F

- 1回目の会議で資料2「岐阜市立女子短期大学の現状について」の志願状況が低調という説明では、原因は何か、例えば、短大に対するニーズが無いか、学科内容や岐女短の教育に対する評価の問題か原因分析が必要と思う。本日の資料2に短大と大学の情報があるが、短大に重点を置いて分析した資料がいるのではないか。運営体制を本格的に改善していくなら先ほどの話の顧客の顔を鮮明にするとか、卒業後の進路の絞り込みの分析が必要と思う。
- 短大志望傾向には、2年後に就職を目指す方が一定数いるのと、一般的に評価されている4大に入学したいが学力が少し足りないので、比較的編入で4大に入学しやすい短大へあえて入学するケースがある。名古屋市内の有名私立大学では高校からの推薦入学を大学側が受入れていないが、短大なら推薦があり、短大から編入で4大を目指すコースが高校生に認知されている。このような高校生のニーズを捉えるのも必要と思う。本日の学科に関する資料はよく考えられていて、こうなっていくのだろうと感じた。ただ、志望状況の改善のためには、進路の絞り込みをもう少しした方がよいと思う。
- 4大化検討の話があったが、校舎や学内敷地面積等の設置基準が満たさない可能性もあり、新たな取り組みを試みるなら文系ではあれば岐阜大学、その他の分野であれば岐阜女子大学などの4大と連携した方が比較的すぐに再編運営が始められると思う。いずれにしても、高校生のニーズを把握し、選定したターゲットを確実に獲得し、卒業後の進路も明確に示せるとよい。

○出席者H

- 学内の教員と議論した上で本日の資料をお示したが、産官学連携で教育し社会に通用する学生を輩出するということは基本的な考え方で今も議論が進んでいる。また、先ほど話にあった自己成長型の人材育成は学内でも重要と考えている。学科分野にもよるが、産官学の協力を得て全国、世界で活躍する学生の育成を念頭に議論が進んでいる。現教員で新たな取り組みを進めていけるかは学内の教員と協議し、どのように教育をしていくか、学科としてどのように有機的に結びついて、目標が達成されるか今後も議論していきたい。

- ・本日の意見は多くの課題を改めて確認できた。各教員とも共有し、しっかり具現化できるよう更に検討していく。新設科目を有機的に結びつけ学生の育成に役立てていけるか、教員自ら何ができるかを確実に考えてもらい、学内の意見を集約した上で足りない部分をどうするかステップを踏んでいきたいと思う。今後は、現教員がやるべき点、自ら変化の必要な点などを考えるよい機会にしたいと思う。

○出席者E

- ・例えば食についての機能的概念で、食は健康、スポーツ、美容、医薬品、介護などに結びつく具体的な話は大変勉強になった。本日の資料1では現教員の力を反映した新設科目は提示しているが、先ほど話にあった複合的科目設定として例えば、ある物とある物の組み合わせ方の工夫で魅力が生まれることがある。組み合わせの妙のような新たに各学科で目指すものとして受験生の顔が分かりどのような学生を求めるか、学生からすると何が学べるか複合的組み合わせ科目もイメージを示し前面に出すとよいと思う。また、実習科目や演習科目いわゆるフィールドワークを各科目の中で行う上で、地元産業や様々な分野に結びついた形の演習科目を改善した点を前面に出すのがより魅力的な科目に繋がると思う。

○出席者B

- ・社会人向けの講義を考えてもらいたい。リカレント教育で社会人にも知りたい、学びたい方は一定数いると思うので、インターネットなど様々な手法で参加できる仕組みを考えてもらいたい。社会人が短大や大学の講義の受講により、学生と社会人が同じプラットフォームで共有の場が生まれ、教育の場を通して社会人が学生の感性を知る機会にもなる。例えば、健康向けの食事や食べ方は様々で、教員の考えや知識、経験を活かせれば健康について意識の高い社会人が学べて、学生以外の人と接する教育によりコミュニケーションの取り方などの勉強にもなる。今後は学ぶ目線を色々と変えるのが教育のあり方を考える上で必要と思う。社会人は知りたい、学びたいと思っても、短大や大学で何が学べるか知らないと思うので、社会人が参加できる講義を検討してもらいたい。

○出席者F

- ・一般的に社会人向けの講義の参加料は上限1万円程度なので、私立の短大、大学としては運営費の採算が合わないかもしれない。また、一般者向けなどの講義としてネットワークコンソーシアムを各大学で設けているが参加者が低調と

いう課題がある。何が学べてメリットを具体的に示せないとな社会人向け講義は難しい面もあり、エッジの利かせ方が重要と思う。

○出席者D

- ・教員構成を考えた時に教員人数は現状維持でよいと思う。教員が得意なところは、カリキュラムを作りしっかり教えることだと思うが、生きる力の自己成長型について、教えたことや新設学科を教えるなら今の教員では補えない部分が出てくると思う。その点は、カリキュラム構成を現教員でできる部分、できない部分を区切り、できないことは外から徹底的に人材を呼び、教員がマネジメントする集団になると大学としては強くなる。外の人材を呼ぶなら、地域の企業にも協力してもらおうと実践教育が成り立つと思うし、例えば、地域の社長を客員教授にするのも考え方としてあると思う。教員が責任を持つのはカリキュラムの作り上げで、それを行政、市民、学生などのステークホルダーが納得するものか客観的外部評価を受けるような積み上げが教員の責任である。魅力的な科目を考えるなら足りない部分の情報を集め、少人数の教員構成の方が強みであり進めやすいと思う。

○出席者H

- ・岐女短は少数の教員構成なので、今後もしっかり議論できると思うし、幅広くないが、学内には色々な視点を持つ教員がいるので、一つの方向性に固まるよう議論していきたい。
- ・社会人のリカレント教育は、これから特に議論するテーマであり、本日の意見も踏まえ、学科編成も含めて岐女短の取り組みを確立していきたいと思う。
- ・前期は地域連携として、今後の地域連携センターについて議論を進めステップを踏んでいるが、リカレント教育とリンクするような産官学が満足できるような形を模索して良い方向に進めたいと思う。リカレント教育は、ゼロからのスタートになるので時間を要するかもしれないが、学生が企業や教員と交流する地域連携の取り組みを推進していきたい。卒業生や企業などと学内で交流できる短大になれば、素晴らしい環境になると考えている。

4 閉会

○事務局

- ・次回、会議（3回）は、10月22日（金）の開催予定なのでよろしくお願いする。